令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

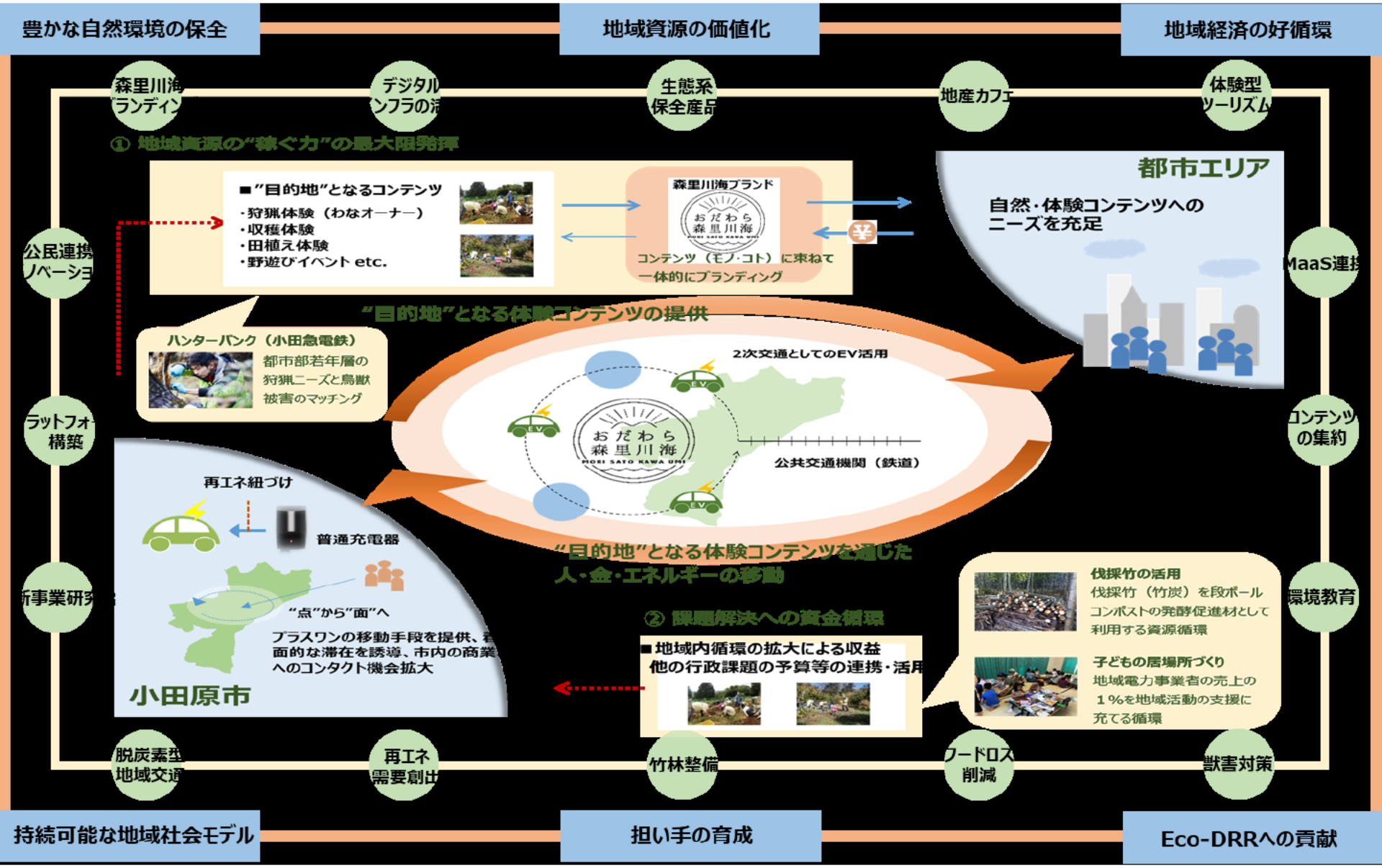
キックオフミーティング　発表資料

活動団体名：小田原市

活動地域　：神奈川県小田原市

森里川海（しぜん）を暮らしの中に

地域循環共生圏の実現により目指す地域の姿



昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- コンソーシアムによる地域課題の解決を価値化するスキーム構築
- 地域エネルギー事業等による人・資金循環の仕組みづくり
- 新たな人材確保とおだわら環境志民ネットワークの組織強化

実践の中での気づき

- 地域内ですでに様々な取組が行われている中で、新たな課題解決に資するビジネスモデルを確立することは、課題意識を持った人が中心になる必要がある。
- 新たな価値の創出には、ソーシャルビジネス等に精通する専門家のアドバイスが必要である。

実際に行った取組

- コンソーシアムで検討した将来ビジョンや、地域課題の洗い出しを行った。
- それをもとに、支援チームの事業構想大学院大学を講師に、新事業研究会を開催し、資源のつなぎ合わせ等による新事業を構想した。
- 地域エネルギー事業者（湘南電力株式会社）との共同事業により、電力料金の１％を地域の子ども食堂の支援に充てるプランをスタートした。

事業のタネ３つ

- 森里川海などの地域課題の解決に資する事業（コンテンツ）を創出する
- 地域内で実施されている取組、体験及び産品等を「おだわら森里川海」でパッケージ化して一体的にブランディングする
- EVカーシェア事業等との連携により、体験等をつなぐ都市域へのプロモーションを行う

昨年度の支援チーム派遣について

①支援チーム派遣によって解決したかった課題

- 地域で新たな価値を創出する事業の構想及び実践に向けて活動できる人材の育成。

②支援チーム派遣を活用して取り組んだ内容

- 「新事業研究会」を開催し、地域にある資源や地域の人々の知見・経験などを最大限に生かし、結びつけ、地域において新たな価値を創出するような事業の構想に取り組んだ。

③支援チーム派遣の成果

- 研究会参加者による個別事業の構想及び小田原における様々なステークホルダーとのネットワークの構築。

④積み残した課題や新たな課題

- 地域課題解決における取組等が人と資金の循環を生み出し、自然環境保全に投入される仕組みづくりと、持続可能な運営体制。

今年度の取組と到達目標

今年度の取組

- 地域内で実施されている森里川海の要素を含んだ取組や体験、産品等をパッケージングし、森里川海のつらなりをコンセプトとした「おだわら森里川海」として一体的にブランディングし、域外への認知度を高めるとともに、消費を促進させ、その資金の環境保全活動に投入する仕組みの構築（域外循環）。
- その中でも、「獣害対策」をテーマに小田急電鉄株式会社と連携して実施するハンターバンクプロジェクトと、「荒廃竹林の解消」をテーマとした伐採竹の活用プロジェクトについては、リーディングプロジェクトとして実施。
- これらの好循環を生み出すため、メニュー開発やプロジェクト推進だけでなく、全体のブランディングや情報発信、来訪者の受け入れ体制、料金徴収・分配等のキャッシュフローの構築など、一貫して行う持続可能な運営体制の整備。
- 「脱炭素型地域交通モデル構築事業」におけるEVカーシェア事業と連携し、体験等をつなぐ２次交通の手段として活用していくほか、MaaSなどのデジタルプラットフォームとの連携により、持続性の強化、都市域などのターゲットへの効果的な訴求・プロモーション。

今年度の到達目標

- マーケティング調査に基づくターゲティング、ブランディング、プロモーションの実施。
- ブランディングされた体験コンテンツ等の実証実験の実施。
- 効果検証を行い、その結果を踏まえ、次回以降のターゲティング・マーケティング等へ反映し、次年度の事業計画策定。
- 持続可能な取組に向けた将来的な運営主体を構築するための事業計画の策定。

今年度の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始	◆キックオフミーティング		現地意見交換会			◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◆		◆成果報告会	
森里川海ブランディング事業	・メニュー（プログラム、ブランド）開発 →企画・関係者調整・広報・フォローなど ・効果的な情報発信 →都市セールス・交通事業者・旅行業者・観光協会等との調整 ・来訪者の受け入れ態勢の整備 →通常メニュー・イベントメニュー・アテンドなど ・料金徴収、分配、管理方法の検討 ２本の柱							・モニターツアー、体験を実施	・効果検証	・本稼働に向けた準備		
獣害対策（ハンターバンク）プロジェクト	・小田急電鉄との連携調整 →獣害対策事業における実証実験に向け、関係団体及び農家等との調整 市内関係団体等との体制構築				・実証実験期間 →２～３フェーズに分けた実験を想定 期間ごとに効果検証しながら、次期実験へフィードバック							
荒廃竹林解消プロジェクト	・竹炭の活用検討 →関係団体及びスーパーと、段ボールコンポスト基材と竹炭の店頭配布の調整			・竹炭配布店舗等の拡大 ・プロジェクト体制整備/モデル竹林選定/伐採後の跡地活用案の検討		・竹の伐採期間				・次年度に向けた事業計画策定		

新規に取り組む団体へ一言！

- 地域内を見渡せば、まだまだ新しい発見があり、新たなつながりもできます。

こんなことを助けて欲しい！

- 実証団体の皆様に小田原と聞いて思い浮かぶ率直なイメージを教えていただきたい。